



聖徳太子1400年大祭 令和4年7月22日～25日



第 140 号
(令和5.1.1)
信 楽 寺

〒690-0052
松江市堅町88
TEL(0852)21-1589
FAX(0852)21-1590
郵便振替口座番号
01450-3-13538
山陰合同銀行 本店営業部
普通預金 No.3147251
宗教法人 信楽寺
代表役員 内田広平



新たにInstagramを始めました。
どうぞお寺の様子を
ご覧下さい。



HP



Instagram



謹賀新年

令和五年元旦

信楽寺住職 楽 誉 広 平

副住職 強 誉 量 介
総代 一同



今年の

しゅしようえ

修正会(初参り)

新年賀会は

コロナウイルス感染予防の為中止と
します。修正会は寺族(住職家族)で
つとめます。

正月三ケ日は本堂正面を開けており
ますので、お参りお待ちしております。

目次

浄土宗開宗850年を控えて	住職 楽誉 広平	2頁
聖徳太子一千四百年大祭	副住職 強誉 量介	3頁
出雲教区檀信徒大会に参加して	阪本 憲治	3頁
写真で振り返る聖徳太子一千四百年大祭		4頁
母の死で思うこと	佐々木博章	5頁
写真で振り返る令和4年後半行事		6頁
追善寄付・寄贈図書・令和5年回表・年会費について		7頁
令和5年行事予定・定例行事ご案内・編集後記		8頁



明けまして

おめでとうございます。

今年こそコロナが落ち着き、戦争が終わり平和な日常に戻ってもらわなければと思います。が、現実には増税だの物価の高騰は収まらず、新たな問題が増えつつ有るように思えます。

こんな時代に振り回されず泰然自若として過ごして行きたいと思いますが、なかなか難しく、日々の問題に頭を悩ませている私であります。

こんな時代だからこそ目先の御利益を唱え、勧誘してくる宗教が増えてくるのも当然なのでしよう。「この壺を買えば地獄に墮ちているあなたのご先祖を救うことができます。」統一教会しかり、目先の御利益をすすめる、勧誘してこようとすると宗教には、



浄土宗からのポスター

くれぐれもお気を付け下さい。家族が崩壊しない為に、せつかくお持ちいただいているお念仏の信仰を、まやかして、だと否定してくる宗教にも充分お気を付け下さい。

浄土宗をお開きなられた法然上人は43歳の時、お念仏のみ教えをお示し下さいました。

昨年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の時代でございます。源平の争いが激しさを増すなか、安元3年4月京都大火で大極殿が焼失します。法然上人45歳の時です。そして治承4年12月平重衡が奈良の東大寺・興福寺を焼きます。

養和元年春京都飢饉によって、鴨川の流れを堰きとめるほどの餓死者があつたそうです。その日その日を生きていくこと

に精一杯であつた時代に、法然上人は特別な物を用意する必要が無く、何処でも、誰にでも出来るお念仏のみ教えをお選び下さいました。それは誰にでも出来るお念仏であり、誰でも同じく救われていく教えであるからです。まさに「人間は平等だ」

という思想に基づいたみ教えであります。それは現代にも色褪せぬ教えであるはずですが、今の時代が、戦争、流行病、災害に悩まされる時代だからこそ、法然上人がお開き頂いたお念仏のみ教えを、しっかりと信じ行う必要があります。

奇しくも来年が法然上人が浄土宗をお開きになられて、850年の年を迎えます。

どうぞ一緒に お念仏を称えてまいりましょう。

森田総代ご退任される



任期をもつて森田総代が退任されました。森田氏には昨年の聖徳太子一千四百年大祭に庶務部長としてご尽力賜りました。感謝申し上げます。

来迎寺吉野総代ご往生される

昨年12月8日吉野蕃人総代がご往生なさいました。

3年間のシベリア抑留の悲惨な話を、本人から聞かせてもらう機会はありませんでしたが、口に出せないほどの過酷で地獄のような日々を過ごされたことでしょう。

サポートサービス花

お墓に行きたくても行かない、お墓が気になる、お花をお見せしたい。

ご先祖様供養、思いを伝えたい方の代わりにお墓にお参りいたします。

サポートサービス花専門
墓守 墓誌 墓石 墓埴
墓刈り 除草 樹木竹伐採

山本事務所 030-6255
東京本社 03-5811-7911
西神 030-48781977

以心伝心

サポートサービス花
090-14578-11977

お墓参りが難しい方の為に

最近お墓参りがしたくても出来ない、高齢者の方、遠方の方の為に代行業者を見かけます。お花の交換、お墓回りの掃除、いろいろなおサービスがあります。私の同級生で信頼している業者を紹介しておきます。必要であれば直接お願い下さい。

帰還後は「お花の先生」としてチューリップ、桜の研究に励まれ「桜守」という称号を贈られました。

遺影は生前からご自身が選んでおられた八重の桜をバックに微笑む先生らしいお顔でした。

お顔の周りには溢れんばかりのお花につつまれての出棺となりました。

戒名 桜守院蕃誉天籟居士

合掌

信楽寺聖徳太子1400年大祭 収支報告書

収 入		令和4.11.23
項 目	金 額	
信楽寺会計	5,607,445	
寄付金 524件	5,540,000	
特別会計	2,000,000	
合計	13,147,445	

支 出		金 額
項 目	金 額	
太子堂改修工事	10,180,000	
改修工事	7,430,000	
調査・設計・監理業務	550,000	
仏具一式	2,200,000	
記念品	1,944,000	

うでわ念珠	1,463,000
オリジナルマスク	301,000
オリジナルTシャツ	180,000
7/22大祭法要費	755,700
門中寺院・雅楽お礼	360,000
コンサートお礼	190,000
テント椅子レンタル	57,200
お弁当代	82,500
記念写真代	66,000
事務用品・通信代	59,425
準備費用	208,320
看板代	42,900
ポスターチラシ代	102,920
令和3年法要費	62,500
合 計	13,147,445

7月22日から25日まで50年に一度の聖徳太子様の秘仏の御開帳がございました。22日は組内の僧侶の方々と雅楽を演奏される方が一緒に法要を勤めさせていただきました。住職にとっても私にとっても初めてのことでしたので、準備も周りの僧侶の方々と試行錯誤しながら進めました。22日は一日雨が降っていましたが、実行委員の皆様にご尽力頂き、信楽寺のお檀家様や地域の皆様、沢山の方々のご協力を得て、聖徳太子の一千四百年のお祭が出来ましたことがとても印象に残っております。皆様には本当に御礼、感謝申し上げます。

この秘仏聖徳太子像の50年に一度のご開帳の取材を、テレビ、新聞に取り上げてもらったお陰で、県外の方々も「テレビを見ました。ラジオの放送を聴いて来させてもらいました」と沢山訪れてくださいました。想像以上の参拝者に用意していた物が足らなくなったり、慌ててコピー用紙を買いに行ったりと信楽寺始まって以来の盛況ぶりでもございました。そんな中、実行委員であり近所でもある青砥さんが、車の交通整理を炎天下の中やっていただき、また夜には参道の灯籠に火を灯していただき本当にありがたかったです。

この50年に一度のお祭りは家族、町内の皆様、お檀家様の協力があったからこそ、素晴らしい信楽寺の歴史に残る行事となりました。皆様本当にありがとうございます。これからも信楽寺をどうぞよろしくお願い致します。

聖徳太子一千四百年大祭

副住職 強誉 量介

令和4年度浄土宗 出雲教区檀信徒大会に参加して

阪本 憲治

出雲教区の檀信徒大会はコロナ禍の為3年振りでありました。10月25日、場所は出雲市大社町「大社文化プレイスうらら館」でした。お檀家の仲間を誘われて信楽寺を代表して行ってきました。出雲大社大鳥居神門通りから会場付近迄平日にも拘わらず観光客の結構な人数がありました。

当山からの参加は住職・副住職を含め8人でありましたが、お寺で貸切バスを用意して、団体での参加もあり予想より多い人数でした。

大会は開会宣言で始まり、お勤め・教区長挨拶・檀信徒代表宣言・おつき運動綱領唱和・総本山知恩院執事堀田定俊上人による法話・演題「お念仏から始まる幸せ」を聴講しました。少し休憩して、当山では一昨年秋のお彼岸の法要にお呼びしたシーエネ・クラマテール（出雲市出身男女6人のグループ）によるクラリネット演奏を静かに聴きました。さすがに大きなホールでの演奏は一聴の価値がありました。

続いてはPaix2（ペペ）（鳥取県出身の女性二人組歌手／刑務所訪問・保護司として活動）による講演コンサートでした。鳥根県在住の女性ピアニス（保護司でもある）の応援ピアノ伴奏もあり一転して賑やかな歓声となりました。「本当の幸せとは…」の演題で講演もありました。



り若人の頼もしさを感じ、楽しくわかりやすい時間を過ごしました。最後は宗歌「つきかげ」斉唱、当山住職閉会のあいさつで幕を閉じました。

帰り際Paix2（ペペ）のCDを1枚購入。帰途ワイナリーに寄り土産にワインを1本購入。

世界ではウクライナをはじめ今も続く戦争のなか、日本は何と平和で幸せな国だろう。これも皆我々ご先祖様達のお陰と感謝する日ともなりました。

阿弥陀仏様は彼岸（あの世）への救いをお約束なされ、此岸（この世）にすむ我々もすべて「二人残らず救い取る」と言ってくださっているのですが、世の中動きを見るにつけ、もどかしい気持ちになります。

合掌



七月二十二日
聖徳太子一千四百年大祭



母の死で思うこと

佐々木博章



「婆さん
婆さんと」
叫んでも反
応が無い。
脈拍数と血

圧がみるみる下がっていき、しばらくすると担当医者から「大変残念ですが、ご臨終です」と告げられた。少しの間、放心状態でしたが、これから何をしなければならぬかと、そちらが心配になった。

私は父の葬儀で喪主をしていたので、そんなに慌てることなく、葬儀を執り行うことができました。

享年96才と言うと、大往生だと言う人がいます。確かに年齢的には世間で言われる大往生かもしれないませんが、大腿部の骨折をしなければもっと長生き出来ただろうにと思い、寧ろ残念でたまりません。

また、コロナウイルスの流行で病院が面会謝絶となり、会って会話をすることができなかったことも残念でしかたがありません。

ん。病院に行くたびにメッセー
ジを書いた手紙を差し入れしま
したが、果たして読むことが出
来たのかどうか。

昨年3月に我が家に初めての
孫が誕生しました。婆さんには
ひ孫になります。ワンちゃん
同様可愛がってくれました。亡
くなるまでに顔が見られてよ
かったと思いますが、せめて歩
く姿ぐらい見てほしかったと思
います。

佐々木家の中では、婆さんが
亡くなり、孫が生まれたことで、
人数的には差し引きゼロとなり
ますが、孫はたまに会うぐら
いで、息子の子であり爺さん・婆
さんの自由になる訳にもいきま
せん。

孫の誕生は婆さんの穴埋め
にはならないことを痛感してい
ると思います。日にちが経つにつ
れ、あの時婆さんはこうしてい
たとか、婆さんはこんな時どう
するとか夫婦で語りあっている
日々です。

婆さんは18歳で佐々木家に嫁

いできました。たばこの店番を
しながら、私と妹を育ててくれ
ました。佐々木家は封建的な男
尊女卑の家庭で、母はその家風
に合わず、苦勞していました。

昭和39年に祖父母が相次いで
亡くなり、また、同居していた
叔母さんもやがて近くに家を建
てて、出ていかれました。婆さ
んは、自分の今までの人生を取
り戻したいと言わんばかりに、
知人と旅行したり買い物に行っ
たり、行動的になりました。そ
の当時私も妹も県外の大学に
行っており、家には居ませんで
した。

父親は仕事を中心の人でした
ので、家庭を振り返る余裕もな
く、婆さんの言うま
まに洗濯機・冷蔵庫
が買われていました。
前の家が古かった為、
「こんな家に住んでい
たら嫁がこない」と言
うことで、家を新築し
たのも婆さんでした。
金は天下の回りもの
で、どうにでもなる
と言う気前の良さで
建てたのですが：晩

年親父は毎月借金を返すのが大
変であったと回想しています。

私が松江に帰って就職し、嫁
をもらうにも、この人でないと
いけないと強く干渉されまし
た。同居する中で嫁と姑の関係
はなかなか難しいと言われてい
ますが、我が家ではうまく行っ
た方だと思えます。婆さんは嫁
さんに対するストレスも余りな
く、美味しいものを沢山食べさ
してもらい、長生きが出来たと
思います。感謝感謝です。

この度の葬儀に際しまして
は、沢山の皆さま方のご厚情を
賜りましたことを厚く感謝申し
上げる次第です。



先代 正道氏を陰ながら支えて来られた榮子様、
享年九十六の人生でした。
戒名 蒼龍院榮譽正念大姉

住職

写真で振り返る令和4年後半行事

お盆の施餓鬼法要

8月4日松江組のご寺院様方と勤めました。



秋の彼岸法要

9月23日に勤めました。副住職の法話がありました。初めての法話ということで緊張している様子でした。



十夜法要

11月3日に勤めました。本堂、ホールに収まらないほどのお参りとなりました。



出雲教区詠唱大会

11月11日東林寺にて詠唱大会がございました。3年越しの大会でしたので参加者の皆様気合が入っておられました。信楽寺からも参加しました。大会後は信楽寺住職による講習もありました。



墓地清掃と浄焚会

12月5日(お焚き上げ)を致しました。多くのお参りがありませんでした。無事にお焚き上げさせて頂きました。



追善寄付

為 弟追善 金一封 施主 北條 主
 為 母追善 金一封 施主 井川 和人
 為 夫追善 金一封 施主 石倉美智江
 為 母追善 金一封 施主 今中 成弘
 為 母追善 金一封 施主 野津 博
 為 母追善 金一封 施主 和田 悟
 為 夫追善 金一封 施主 石津 由起

為 父追善 金一封 施主 藤原 昌一
 為 妻追善 金一封 施主 寄能 清澄
 為 夫3回忌追善 金一封 施主 大谷 宏子
 為 妻追善 金一封 施主 石井 敏美
 為 弟追善 金一封 施主 管内 泰夫
 為 父追善 金一封 施主 榊原 幸春

寄贈図書

ご本人寄贈
 為 先祖代々

山麿造りの創始者 嘉儀金一郎
 土偶を読む
 暁の宇品

施主 大矢幸雄
 施主 高橋真一

皆様ご寄付・ご寄贈有り難うございます。
 特に高橋真一氏は2冊の本について「大変に面白い本でした」とご紹介頂きました。
 読みたい方は貸し出しますので住職まで申し出下さい。

令和5年 年回表

一周忌 令和四年(二〇二二)亡
 三回忌 令和三年(二〇二一)亡
 七回忌 平成二十九年(二〇一七)亡
 十三回忌 平成二十三年(二〇一一)亡
 十七回忌 平成十九年(二〇〇七)亡
 二十五回忌 平成十一年(一九九九)亡
 三十三回忌 平成三年(一九九一)亡
 五十回忌 昭和四十九年(一九七四)亡
 百回忌 大正十三年(一九二四)亡
 百五十回忌 明治七年(一八七四)亡
 二百回忌 文政七年(一八二四)亡
 二百五十回忌 安永三年(一七七四)亡
 三百回忌 享保九年(一七二四)亡
 三百五十回忌 延宝二年(一六七四)亡

令和5年度年会費（維持費）納入について

令和5年度年会費（維持費）の払込用紙を同封しております。納入は6月一杯を納入期間としております。現金で払込の場合、手数料が納入金額にかかわらず、定額加算料金110円が払込人様に必要となりますので、ご負担をお掛けしますが宜しくお願い申し上げます。

コンサートの告知

新春早々娘(千陽)が此方で
 コンサートを致します。

プラバ・ニューイヤー オペラコンサート

日時 1月15日(日)
 午後1時半会場
 場所 安来市総合文化ホール
 アルテピア
 ・前売券 一般2千円
 若干手元に有ります。連絡下さい。



しまね県民オペラ ラ・ボエーム

日時 2月25日(土)
 26日(日)
 午後2時会場
 場所 島根県民会館大ホール



*チケットは県民会館又は高木
 楽器店他で求め下さい。

令和5年 行事予定

中止

行 事	期 日	時 間	場 所	備 考
修正会 (初参り) <small>しゅしょうえ</small>	大晦日から元旦にかけて 本堂を開けております		当山本堂	
新 年 会			当山本堂	
涅槃 会	2月中		当山本堂	2月15日はお釈迦様がご入滅なさいました涅槃の日です。 2月一杯本堂に涅槃図をおまつりします。お参り下さい。
令和5年初めての 早朝墓地清掃	3月19日(日)	午前7時からおつとめ 午前7時半から清掃	当山本堂	まだ寒い時季とは思いますが、皆さんのご参加お待ちしております。
春 彼 岸 法 要	3月21日(火) 春分の日	午後1時半より	当山本堂	皆さんと一緒にお念仏をお称えました後、昨年コロナの 為中止としました、安来市広瀬町歴史博物館館長、平原金 造先生にご来山いただきます。昔の広瀬町の地図から、元々 信楽寺のあった場所を発見していただきました。興味深い 話になると思います、お楽しみに。
聖徳太子祭り	7月22日(土) ～23日(日)		聖徳太子堂	22日は午後7時よりおつとめをいたします。新しく修繕さ れた聖徳太子堂に是非お参りください。夜には十七条憲法 写経用紙で参道を明るく照らします。
墓地一斉清掃	7月30日(日)	午前6時おつとめ 午前6時半墓地清掃	信楽寺墓地 松尾町墓地	次号つきかげ表紙にてご案内申し上げます。ご確認ください。
棚 経	8月1日(火) ～15日(火)			皆さんのお宅にお参り致します。次号つきかげ発送時に同 封致します。
盆施餓鬼法要	8月4日(金)	午前10時	当山本堂	初盆を迎える仏様を皆さんでご回向致します。
地藏盆おつとめ	8月23日(水) ・24日(木)		豎町灘側 地藏尊	
秋 彼 岸 供 養・ 永代供養法要	9月23日(土)	午後1時半	当山本堂	おつとめの後、住職の法話の予定。
おてつぎ信行奉仕団 (本山参拝)	未 定	詳細は次号にて お知らせします。	総本山知恩院	
出 雲 教 区 会 檀 信 徒 大 会	未 定	午後より	雲南市加茂 文化会館ラメール	未 定
十 夜 法 要	11月3日(金) 文化の日	午前10時半より	当山本堂	後日、塔婆の申込みを往復ハガキにて、直接ご案内致します。
出 雲 教 区 会 詠 唱 大 会	未 定		未 定	年に1度の詠唱の大会です。現在講員の人数は少ないです が、いつでも入会お待ちしております。
今年最後の墓地清掃・ 浄焚会 (お焚き上げ) <small>じょうぼんえ たあ</small>	12月3日(日)	午前7時	本堂正面	浄焚会とは、捨てるに捨てられず困っているお守り・お札・ お仏壇の道具類の魂を抜いて供養するおつとめです。お気 軽にご相談下さい。

基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

定例行事ご案内

ご詠歌の練習

毎月第1・3土曜日
午後1時半より
随時新会員募集中

墓地清掃

毎月第1日曜日早朝
1・2月はお休みします。
初めての朝掃除は
3月19日(日)です。

つきかげ会

毎月第2日曜日
午後1時半より

写経会・写仏会

毎月22日 午後1時半より
写仏も出来ます、字の綺麗さには
こだわりません。
1,000円の参加費が必要です。

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。詳しくは本堂前の看板にて月行事ご確認下さい。



数日後代表の女の子からお礼の手紙をもらいました。「私が特に印象に残っていることは、仕事の体験です。お寺の掃除という貴重な体験もでき、お寺の歴史だけでなく寺町やお城の歴史も合わせて教えていただいたので分かりやすかったです。お寺での宗教体験が子供たちの将来に少なからず糧となることを願って止みませんでした。

昨年、江第三中学校の生徒さんがお参りに来られました。地域探検を名目に授業の一環としてのお参りでした。宗教離れ、寺離れと言われる中、学校の理解を得て、お参り頂けたことを有り難く感じました。中学生にはお坊さんの基本である、一掃除二おつとめ、三学問を短い一時間に体験してもらいました。

編集後記